



視点①

カリキュラム・マネジメントを考える
～ESDカレンダーの作成を通して～

第2学年・第4学年

2年 ESDカレンダー

教科領域	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
国語		今週のニュース（書） かんさつ名人になろう （情報収集） こんなもの、 見つけたよ （取材） 大好きなもの、 教えたい （情報収集・メモ） しかけカード の作り方（説明 の仕方・順序） あったらいいな、 こんなもの （話し方・順序） みんなで きめよう （話し合い）										
算数												
生活		来て！来て！西田の町 春の町ではっけん さいばい はなややさいをそだてよう 町にははっけんがいっぱい みんなのはっけんを あつめよう 町のひとにつたえたい										
音楽												
図画工作												
体育												
特別の 教科 道徳		町の大いちょうの木 （郷土愛）		どうぶつ森のおまつり （郷土愛）				ひみつのばしょ （自然愛）		おおきくなあれ、どんぐりくん （自然愛）		
特別 活動		学級会・スピーチ活動など										
行事		遠足						生活科見学				

第 2 学年
国語科

大すきなもの、教えたい（わたしの町はっけん）

平成 30 年 9 月 28 日（金）第 5 校時
杉並区立西田小学校 第 2 学年 4 組 30 名
授業者／瀬戸口 泰博

単元目標

- 伝えたいものの様子を思い出し、必要な材料を集めようとしている【関心・意欲・態度】
- 伝えたいことについて、話す事柄や順序を考えて発表することができる。【話す・聞く】
- 伝えたいものの様子や出来事のほか、大切にしたいという思いを詳しく書くことができる。【話す・聞く】
- 一音、一音をはっきり発音し、相手に届く音量で話すことができる。【話す・聞く】

児童の実態

児童の学習態度は良く、学級の雰囲気も安定している。1 学年から話し合い活動を多くの場面で取り入れてきた。毎朝継続しているスピーチ活動では、話す技能よりも「話しやすい雰囲気づくり」に力を入れてきた。そのため、人前や小集団内で話すことに抵抗がある子は少ない。ただ、スピーチに必要な材料を集め、順序を考えて人前で話すことが得意でありながら、その力を「書く力」に生かし切れていない児童も多い。

単元観

国語科「今週のニュース」の学習で、相手に何かを伝えることの楽しさや、難しさに気付かせると同時に、「話して伝える」だけではなく「書いて伝える」ことに着目させる。また、毎回友達から短いコメントを書いてもらうことを繰り返すという活動を継続することで、伝える楽しさを実感させたい。このことは、コミュニケーション能力向上の素地となる「自分の考えを伝え、相手の考えを知ること」（双方向性）の大切さや楽しさを児童が実感し、自己肯定感の向上につなげることができる。と考える。

本単元で取り扱う伝えたいことに関しては、生活科「わたしの町はっけん」と関連させることで、地域での出来事や事物に話題（題材）を絞ることができ、同じ地域に暮らす友達同士で気軽に体験を共有することができる。と考える。さらに、道徳「町の大きいちやうの木」、「どうぶつ森のおまつり」の学習を関連させることで、有形無形問わず、地域が大切にしているものがあることに気付かせ、伝えたい物事に対しての「想い」を込めた文章を書くことができると考えた。

このような書く活動の習慣化は「書いて伝える力」を向上させるとともに、生活科や特別の教科道徳と連携していくことで、地域に対する興味や関心を「情報」に込めやすくなるであろう。ともすれば出来事や情報の羅列で終わる「伝えたいこと」であるが、せっかく込めた思いを、「効果的に伝えるためにどうするか」という考えに結び付けたい。効果的に相手に伝えるためには、「話す順序」、「表現の工夫」、「丁寧な言葉遣い」が必要であると気付かせたいという思いから、本単元のカリキュラムをマネジメントしている。

評価規準（ESD の観点から）

観点	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識
	自分の大好きなもの、伝えたいものを伝えようとしている。	・伝えたいことについて、必要な事柄を集めている。(1)ア ・話す順序を考えて、敬体を使って話している。(1)イ ・みんなに聞こえる声で話している。(1)ウ	事物の内容を表したり、経験を伝えたりする言葉の働きに気付いている。(1)イ(ア)

目標と主な学習活動（全 5 時間）

	目標	学習活動
1	・地図を使って、地域の「大好き」を話し言葉で発表するという学習の見通しをもち、伝えたいことを考えることができる。	・生活科で作った地図を使って地域を紹介することを知る。 ・「選んだこと」の良さや、選んだ理由について考え、メモを取り情報を蓄積する。
2	・紹介文を書くために、伝えたいものの様子や自分の気持ちを詳しく書くことができる。	・発表の構成（「始め」「中」「終わり」）に着目する。 ・「始め」と「終わり」ではどんなことを話しているか考え、伝えたいことは「中」で話すことに気付く。 ・メモをもとに「始め」と「終わり」で伝えることを考え文章に書く。
3	・伝えたい事柄を整理し、書く順序を考えることができる。	・「中」の部分に書くことを選び、必要な情報メモを選択する。
4 本時	・言葉遣いや声量を意識して、発表の練習をすることができる。	・「中」の部分で話したいことを書き出し、伝わりやすく、自然な流れになる順番に並べ替える。
5	・話の順序に気を付けて発表することができる。	・グループで順番を決めて発表する。

第 2 学年

国語科・生活科

来て！来て！西田の町

単元計画

<外部人材・地域資源等>

・大田黒公園・田端神社・西郊ロッテング・中道寺
・ゆう杉並・杉並区立成田西ふれあい農業公園

課題設定

きっかけをつくる：

国語科「今週のニュース」の学習から、相手に何かを伝えることの楽しさや、難しさに気付かせる。同時に、「話して伝える」だけでなく「書いて伝える」ことの大切さにも目を向けさせる。

学習活動①：ニュース候補をいくつか挙げた中から一つを選択し、短い文章にする。お互いのニュースに対してコメントを記入する。
※ワークシートの使用法を理解させ、作業を繰り返し、習慣化させる。

体験 1 気付く（生活科）

考える・工夫する（国語科）

学習活動②：生活科「はなやさいをそだてよう」、国語科「かんさつ名人になろう」と関連して、内容の充実を図るほか、効果的な「伝え方」や「書き方」について考え、表現の工夫につなげる。友達の工夫について気付き、自分の表現に取り入れられるものを取り入れていく。

※他者からの評価（コメント）を自己肯定感につなげる。

※生活科の観察カードの記入に際し、「～のようだ」「～みたい」などの比喩表現や、「ぎざぎざ」「すべすべ」などの表現を使って、見たものを効果的に相手に伝える工夫を考えさせることで、「文章による表現力」の向上につなげる。

視点の変化①

学習活動③：生活科「たくさんあるよ町の大好き」に関連させ、「個人的な」ニュースを一般的でより共有しやすいものへと拡張していく。

視点の変化②

学習活動⑤：道徳「町の大いちょうの木」の学習をきっかけに、建物や場所のみならず、「公共性の高いもの」や「思いを共有できるもの」に視点を向けさせる。

学習活動④：国語科「こんなもの見つけたよ」と連動し、地域に関して「始め」「中」「終わり」を意識して文章を組み立て、対象に対する自分の思いを書く。

学習活動⑥：国語科「こんなもの見つけたよ」と関連させ、地域に関して書き集めた文章を、相手に伝えるという視点から構成を考慮した文章に推敲する。友達とコメントを書き合い、感想を伝え合い学習を振り返る。

学習活動⑤⑥繰り返し

考える・工夫する（生活科・道徳）

学習活動⑦⑧生活科

「絵地図をつくらう」
国語科の学習で得た情報を書き込みながら通学路を描く。（店舗情報、施設、交通の情報など。）

学習活動⑨⑩道徳

「どうぶつ森のおまつり」
「ざわざわ森の星まつり」(NHK for School)
場所や施設だけではなく、実は祭りや催事など無形文化も地域は大切にしてきたことを自分の体験を思い起こすことで気付き、そのことについて考える。

体験 2 気付く（生活科）

学習活動⑪生活科

「町はつねににゅっぱつ！」
まだ知らない町の情報の収集。また、友達から得た情報や町の雰囲気などを確認する。

考える・書く（国語科）

学習活動⑫国語科

「こんなもの見つけたよ」
町探検で得た情報や、気付いたことをワークシートに記入する。

気付く（道徳）

学習活動⑬道徳

「ひみつのばしょ」
動植物との触れ合いや、それを育める緑豊かな環境に自分たちは住んでいることを話し合い、地域のよさに気付く。

考える（生活科）

学習活動⑭⑮生活科

「はっけんしたよ すてきなこと」
地域について他のグループの友達とも情報を共有し、そこから自分が知らなかった町の情報を得る。「ひみつのばしょ」を手掛かりに、自然や環境に関する情報や町の雰囲気なども、大切な情報だと知る。学習前の町のイメージと比較する。

まとめる（国語科生活科）

学習活動⑯国語科

「大すきなもの、教えたい」
それぞれが地域の伝えたいことを選択する。理由を織り交ぜながら、紹介文を作成し、発表の仕方を考える。

学習活動⑰⑱生活科

「みんなのはっけんをあつめよう」
小グループに分かれ、お互いの情報をもとに地域の地図を作る。得た情報は随時書き加えていく。

気付く（生活科）考える・書く（国語科）

学習活動⑲生活科「みんなのはっけんをあつめよう」

音やにおいなど色々な観点から町を見直し、情報として書き加えていく。点字ブロックや盲人用信号機などの位置も確認し、将来的に福祉の視点につなげる。ガイドブックを作成することを知る。

学習活動⑳国語科

「今週のニュース」
⑲と連動し、新たな情報を「今週のニュース」としてまとめ、発表する。

体験 3 気付く（生活科）

学習活動㉑国語科「大すきなもの、教えたい」
地域の大好きな部分を発表することを知り、生活科探検への意欲を高める。

学習活動㉒生活科

「はっけんしたよ、いろいろな人のしごと」
2回目の町探検に出発し、町の人の仕事などに着目し、話を聞く。

考える・書く（国語科）

学習活動㉓国語科

「大すきなもの、教えたい」
作成した地図をもとに地域の伝えたいことを選択する。理由、詳しい情報などを織り交ぜながら、「西田の町」に行きたくするような紹介文を作成する。

まとめる（生活科・国語科）

学習活動㉔㉕生活科・国語科

「みんなにおしえてあげよう」
「広げ、町のたから」
「あったらいいな、こんなもの」(説明的文章)
地図作りで得た情報を外部に発信するためのガイドブックを作る。その過程で、伝わりやすい発表の仕方、文章の順序などを発表に向けて小グループで話し合う。発表の仕方を考える。

伝えることの楽しさを伝える

伝えることを選択する

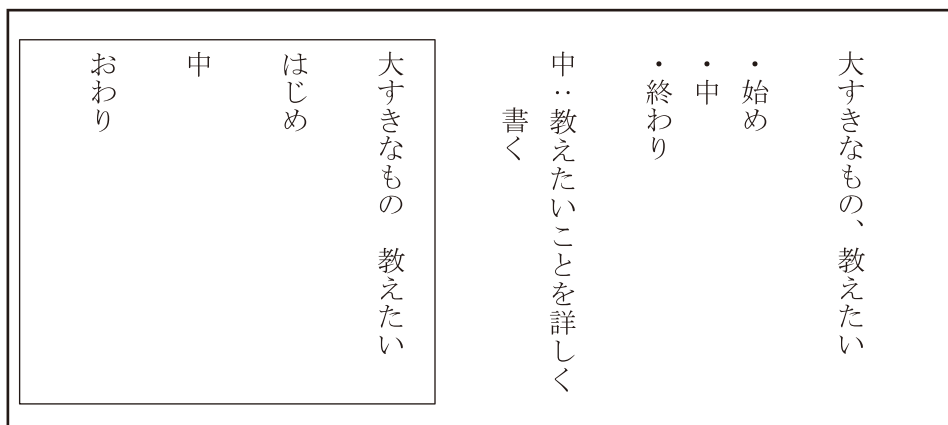
知らせ方を考える

本時の授業デザイン（3 時間目／5 時間）

本時の目標

- ・「中」には伝えたいことを書くことを理解する。
- ・「始めに」「一つめは」「まず」などのつなぎ言葉を使って、分かりやすく書くことができる。

板書計画



評価規準と手だて

評価規準

「中」の部分を書くのに必要な情報を選び、順序を表す言葉を用いて文章を作る。

- 伝えたい事柄の様子や大切にしたいという思いなどを整理し、文章に書くことができる。

手だて

- ◎適した情報を選び、順序を表す言葉を用いて文章化もできるグループ
 - ⇒「一つめは」「二つめは」以外にも順序を表す言葉はないか考えさせる。
 - 自然な文章表現かどうかお互いに読み合わせる。
- 文章化は試みるが、書くべきことに悩みすぎてしまうグループ
 - ⇒自分がこの町に住んでいないと仮定し、外部の人が「行きたくなる」ような情報がまだあるか考えさせたり、どちらがよいのか比較させたりする。
- △文章化が進まないグループ
 - ⇒教科書を参考に、固有名詞などを置き換えることで文章を完成させる。

学習の流れ

① 導入

★前時までの流れを確認する。

- 自分が選んだ「大好きなもの」を確認する。
- 作文には「始め」、「中」、「終わり」があることを確認する。
- 「始め」の部分にはどんなことを書いていたのか確認する。
- 伝えたいことはどの部分に書くのか確認する。

② 展開

★本時の流れを知り、見通しをもつ

- 「中」の部分の役割を確認し、様子や思いを詳しく書くことを知る。
- 教科書の中の部分に注目し、気付いたことを発表する。
 - ・「一つめは」「二つめは」という順序を表す言葉がある。
 - ・「です」「ます」など、丁寧な言葉を使っている。
 - ・自分の考えたことや気持ちが書いてある
- 中の部分に書きたいことを、メモをもとに考える。
 - ※たくさん書きたくても選択する→選ぶ事柄は自分の中で理由がはっきりしているかを考えさせる。
- ワークシートに伝えたい事柄の様子や自分の思いを詳しく書く。
- 順序を考える。
- 二つの文章をつなげて「中」の部分を書きまとめる。
 - ・「一つめは」「二つめは」を使うと上手につながるね。
 - ※それ以外のつなげる言葉を思い付く児童がいれば最後に発表させ、共有する。
- 友達に読んでもらい、誤字脱字などを確認したり、感想を伝え合ったりする。
 - ・とてもよく分かるね。
 - ・ここはなんて書いてあるのかな。
 - ・この漢字は習ったよ。
- 「中」の部分を発表する。
- 終わりの言葉を考えて書き足す。

③ 終末

★本時の学習を振り返る

- 今日の学習でどんなことが分かったか、友だちの「中」の部分によいところがあれば振り返る。